

役員として入ってきていますので、これも頼もしいなと思います。次の世代、次の世代へとバトンタッチをしていき、未来永劫続けていきたいですね。

議長 当初は山内町だけでの交流が、今は武雄市全体の交流となって広域化していますね。子どもたちの成長を生む事業として市全体に大きな利益を与えているのではと思います。

30年のときを超えて

議長 ところで、昨年は30周年の記念式典がアメリカで行われたと伺いました。どのようなものでしたか？

大渡 30年前、一番最初に日本を訪問した方々のスピーチなどがメインで、第一回の訪問団とそのホストファミリーがバッタリ会って思い出話をされるような場面もありました。国際姉妹都市協会の代表の方から、両市・両団体にサプライズで感謝状もいただいたんです！大変驚きました。

議長 両市の絆が確かに育まれているのですね。

全米でナンバー1に！

議長 サンフランシスコ総領事館から

「ほとんど毎年、これだけ長く続いている国際交流は、たぶん日本でも他にないのでは」と聞いています。

大渡 はい、実は、2013年にアメリカ全土で国際姉妹都市コンテストが開催され、私たちを含め全米で80組の応募があったのですが、なんとその中でナンバー1に選ばれたんです。福田昭子前会長はじめ、歴代会長の地道な活動、またボランティアで応援いただいている皆さんや会員さんの協力、行政の理解があつての賜物だと思っております。

議長 民間団体のワールドフレンズ協会が主体であること、それが評価され、長続きしている秘訣なのではないでしょうか。春には今度はこちらが訪問団を受け入れることになっていますが、どのような計画でしょうか。

大渡 昨年セバストポールで受けた歓迎をそのまま、アメリカの子どもたち、市民の方たちにお返ししたいという思いがありますので、こちらでも30周年を記念した式典を開きたいと思っています。あとは、これからも、1年1年安全に、子どもたちのためになるような活動を続けていくこと。今までやってきたことを地道に続けていきたいですね。

第二の故郷として

議長 会長自身、またこれからも訪米される予定はあるのでしょうか？

大渡 行きたいですね。第二のふるさとだと思っておりますので、訪問するときは必ず「ただいま」と言うようにしています。帰るときも「さようなら」ではなく「いつてきます」。「シーユースーン」ですね。またすぐ会えるよって気持ちを大事にして交流を続けていきます。



会長

たけお
ワールドフレンズ
大渡幸雄

姉妹都市締結当初から事業に携わり、これまで8回現地を訪問。子ども達の成長や交流を間近で見守る。



議長

武雄市議会
杉原豊喜

これまで何度も現地を訪問し、自身も受入経験あり。アメリカの国立公園の雄大な景色が印象に残っている。